

事例番号:310216

原因分析報告書要約版

産科医療補償制度
原因分析委員会第四部会

1. 事例の概要

1) 妊産婦等に関する情報

初産婦

2) 今回の妊娠経過

特記事項なし

3) 分娩のための入院時の状況

妊娠 40 週 6 日

6:00 陣痛開始のため入院

4) 分娩経過

妊娠 41 週 0 日

7:00 頃- 胎児心拍数陣痛図上、高度遷延一過性徐脈、基線細変動中等
度

8:19 経膈分娩

5) 新生児期の経過

(1) 在胎週数:41 週 0 日

(2) 出生時体重:3442g

(3) 臍帯動脈血ガス分析:pH 7.261、PCO₂ 57.9mmHg、PO₂ 17.0mmHg、
HCO₃⁻ 25.5mmol/L、BE -3.1mmol/L

(4) Apgar スコア:生後 1 分 8 点、生後 5 分 9 点

(5) 新生児蘇生:実施なし

(6) 診断等:

出生当日 生後約 2 時間 30 分、両上肢の不随意運動あり、反射減弱

(7) 頭部画像所見:

生後 6 時間 頭部 CT で左半球に広範に硬膜下血腫を認める

生後 1 日 頭部 CT で開頭血腫除去術施行後、左前頭葉優位に信号異常を認める

6) 診療体制等に関する情報

(1) 施設区分:診療所

(2) 関わった医療スタッフの数

医師:産科医 2 名

看護スタッフ:助産師 5 名、看護師 1 名

2. 脳性麻痺発症の原因

(1) 脳性麻痺発症の原因は児の硬膜下血腫であると考ええる。

(2) 硬膜下血腫の原因は不明である。

(3) 硬膜下血腫の発症時期は出生前後であると考ええる。

3. 臨床経過に関する医学的評価

1) 妊娠経過

妊娠中の管理は一般的である。

2) 分娩経過

(1) 妊娠 40 週 5 日陣痛発来のための入院時の対応(内診、バイタルサイン測定、分娩監視装置装着、抗菌薬の投与や掻痒感出現のための投与中止)は一般的である。

(2) 分娩経過中の管理(分娩監視装置装着、内診、胎児心拍数の低下が認められ医師に連絡したこと)は一般的である。

(3) 臍帯動脈血ガス分析を行ったことは一般的である。

3) 新生児経過

(1) 出生時およびその後の新生児管理は一般的である。

(2) 生後約 2 時間 30 分に両上肢の不随意運動、緊張低下、反射減弱が出現したため、高次医療機関に搬送したことは一般的である。

4. 今後の産科医療向上のために検討すべき事項

1) 当該分娩機関における診療行為について検討すべき事項

なし。

2) 当該分娩機関における設備や診療体制について検討すべき事項

なし。

3) わが国における産科医療について検討すべき事項

(1) 学会・職能団体に対して

なし。

(2) 国・地方自治体に対して

なし。